

第6回三重県の中核となる中間支援センターの目指すべきあり方研究会議事概要

日時：平成20年1月8日（火）15：00～16：00

場所：みえ県民交流センター交流スペース

参加者：

研究会メンバー／浦田宗昭（いせコンビニネット）、吉島隆子、出丸朝代（旧センター運営委員会）、井上淳之典（みえきた市民活動センター）、中盛汀（ウィリアムテルズアップルまちづくりセンター）、竹村浩（三重県子どもNPOサポートセンター）、米山哲司（松阪市市民活動センター）、世古口（めいわ市民活動サポートセンター）
オブザーバー／前川浩也（伊賀市市民活動支援センター）ほか6名
事務局／松野幸雄、中村敏孝、明石須美子（NPO室）

資料1「三重県の中核となる中間支援組織のめざす姿（案）」について説明

- ・ 「ひろげる」の具体的取組の2番目にあった「資金サポートシステムの展開」は、システムの展開という社会的な中でしくみをつくるというニュアンスが強いのではないかということで、政策宣言の中に入れてしまっていいだろうと削除しました。
- ・ もともと「ひろげる」の中に入っていたのは、どちらかというと財政基盤を確立してもらおう団体の支援というのを中心に考えていたので、そういう表現に変えた方が「ひろげる」の中に入れるのにはいいのではないかということで、「財政基盤確立の支援」に表現を変えさせてもらいました。この辺についてもご意見をいただければと思います。
- ・ そのことも考えながら、今回は、資料2についてです。こちらは、補足資料ということで、作業部会のほうで考えさせてもらった注釈です。みなさんにご意見をいただいて、変更しないといけない部分があれば、また考えていきたいと思っています。

注1 「ひろげる」「つなぐ」「かえる」について意見交換

- ・ まず、注1「ひろげる、つなぐ、かえる」の部分は全体に関わる場所です。一応読んでいきます。「ひろげる」は、「市民セクターの主体的力量をあげること。個々の組織の支援をすると共に公益的活動を行う組織を増やし、市民セクターを広げていく支援を行います。」 「つなぐ」は、「一つの団体、一つのセクターだけでできることは限られています。NPO同士やNPO行政、企業各セクター間が手をつなぐための工夫や実践を行います。」 「かえる」は、「各セクターが特色を生かし合い、共に豊かな社会に発展させていくための、社会全体のしくみを変えていく行動を行います。」ということなのですが、何か意見はありませんか。何かご質問等があれば、また後で全体的に聞くので、次に進ませてもらいます。

注2 市民活動の社会化支援について意見交換

- ・ 次の注2は、の「ひろげる」の具体的取組、「市民活動の社会化支援」というところからです。読ませてもらうと、「当事者や関係者だけの自己満足・完結型の活動ではなく、

社会的で公益的な活動になるように支援していきます。」ということですが、これはどうでしょうか。

- ・ 自己満足、自己完結という部分がすごく強く聞こえますね。
- ・ それがダメとかじゃなくて、それは基本的なこと。僕は自己満足が悪いとは思ってなくて、ボランティアでも自己満足から始まるんだけど、この場合は中間支援組織なので市民活動にしていく支援をしていくということ。それが正しいとか正しくないというものではない。それを言い出すと多分ケンカになってくるのでちょっと表現に困りました。
- ・ する人は多分そのことに気づいていて、そのことがいけないという意識を持っているかもしれないですね。
- ・ ダメとかいけないとかいう話ではないとは思いますが、難しいところですね。
- ・ 確かにこれは作業部会でも気にしていたことなので。
- ・ 「完結型に陥りがちな活動ではなく、社会的で公益的な活動」とすると和らくかもしれませんね。
- ・ ありがとうございます。他に意見があれば。
- ・ 意味のある活動をやってみえるのをもっとPRしたらいいのにといいながらできないのを、何とか社会的に伝えていければいいのに、と思います。
- ・ 内々の活動で留まっていることが多い。
- ・ 視点を外向きに変えていくだけで、活動自体はすごい事をしているんだけど自分達のところで留まっているものが、本当に社会的な、他の人からも支援されていくものになるので、そんなにコロッと変える気はなくても視点を換えればいいという気がします、それがなかなかこだわる人もいるので、そこをどう支援ができるかという意味だと思います。
- ・ その辺が間違っただけで捉えられないような表現をした方がいいということなので、さっき言われたように「陥りがち」というような表現が入るといいのかなというところ。これは、また一度整理をしたいと思います。

注3 みえ災害ボランティア支援センターについて意見交換

- ・ よければ、注3のほうにいきたいと思います。注3に関しては の「つなぐ」の中の一
番下の具体的な取り組みです。みえ災害ボランティア支援センターとの連携ということで、これは、「大規模災害発生時、県内外からボランティアを円滑に受け入れるため、みえ市民活動ボランティアセンターに設置され、災害救援ボランティア活動に関する県内の一元的な情報センターとして、三重県の地域防災計画に位置づけられている組織です。」ということですが、これはどうでしょうか。いいですか。

注4 「協働」について意見交換

- ・ 注4ですが、これは のところと のところと二箇所使っています。協働についての説明ということ。注4 協働という事で、「協働とは事業を行うときの手法の一つで、役割分担の多様さやさまざまなタイミングによるスタートなど、ひとくくりには言

い表せない形があります。協働の進め方はそれぞれの現場で話し合っ決めていくことが望まれます。」ということで、協働の解釈の2つの例を出しています。伊賀市の伊賀市自治基本条例ということで「市民及び市または市民同士や各種団体がそれぞれに果たすべき責任と役割を認識し、相互に補完、協力することを言う。」もう一つは、特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会の例ということで、「目的（ゴール）を共有し、そのプロセスにおいて、それぞれ特性を生かして役割を分担し、それぞれにできることをやりながら、同じ方向へ進んでいく」です。この辺はどうでしょうか。協働というといろいろ考え方もさまざまだと思うので、ご意見があれば。

- ・ 定義そのものはないんですね。
- ・ 例えば、異なる主体が一緒になって事業を行うとすると丁寧かなと思いますが。
- ・ なるほど。協働というのはあくまでも2つ以上がないと協働ではないので、そういうことですね。
- ・ 異なる主体が事業を行う一つの手法ですというのは。
- ・ 異なる主体が一緒に事業を行う手法の一つでとしたほうが、明確にわかるということですね。あとはどうでしょうか。
- ・ 注釈ですね。
- ・ 協働の定義はありませんというのを省略してあるものだから、これは入れたほうがいいですか。定まっていませんというようなことを入れたほうがわかりやすいかどうか。
- ・ 協働の説明は、これはこれでいいんじゃないですか。
- ・ 注釈なので定義として読むので。協働とはって言ってますもんね。最初にやっぱり入れたほうがいいと思いますか。特に定まっているものではありませんというような表現はないほうがいいですか。いいですかね。
- ・ あとちょっと気になったのは2つの例とか入れといたほうがいいですか。定義の例というふうに。協働の2つの例ということで、四角で囲んでおけばいいですね。あとはよかったですか。
- ・ 「進め方は、それぞれの」ですね、点は読みやすいように入れたほうがいいですね。
- ・ 対等ということばが入っているような例を入れるのは。
- ・ 対等という言葉にどうしてこだわるのですか。他にこだわらないといけなところはいっぱいあると思うので、そこだけこだわるもみんなこだわらないといけなくなる。
- ・ 対等ってかなりいっぱいあると思います。役割分担というのは絶対に何事にもついてくると思います。確かに対等というのはあまりこだわりすぎると。
- ・ さまざまな領域の協働があるので、必ずしも対等ばかりとはいえない。
- ・ もう少し他にご意見はないですか。だいたいこんなんでもいいですか。それじゃあ、後でまた全体を通します。

注5 NPOの信頼性向上のための多面的情報収集と提供について意見交換

- ・ 注5で「かえる」の具体的取組の3番めで、NPOの信頼性向上のための多面的情報

収集と提供ということで、「一般市民や企業、行政からもNPOへの感心や期待が高まっていますが、十分な情報公開やPRが行われていないことにより、寄付金やボランティア参加などの支援に結びついていないのが現状です。NPOの信頼性向上のために、財務情報をはじめ組織や事業についての多面的・多角的な情報を収集・提供し、外部の誰もが客観的な評価を行うことができるように環境を整えることが重要です。」ということです。これは作業部会でも悩んだんですがどうでしょう。説明しにくいところもあって長めになっているとか。

- ・ 外部の誰もが客観的な評価を行うことができる・・・とは、どういうふうなことがか。
- ・ 例えば、彼女の団体は法人核をとっているんですが、この団体がどういう団体かというのを、私が個人もしくは企業であったり、行政であったりする立場で、この団体はどういう団体なのだろうか聞きたいと思ったときに、例えば行政なら仕事はできるかとか、企業なら協働できるかとかいうことを考えてるときに、それを判断できる材料が全くないですね。それを判断できるような材料となる情報を、客観的に見れるようなものを、出してもらおう。早い話が、このNPOはどことたくさん協働しているかとか、どこかで分かるようなものを出していってもらわないと、企業ではわからないし、役場でもわからない。そういうものがわかるように情報を出していく手伝いをこの中間支援組織でしましょうということです。
- ・ 評価するのではなくて、その材料を提供する。
- ・ 評価するのは、行政であったり企業であったりで、中間支援組織ではない。そういうことができるような評価の材料をちゃんと社会に出していくお手伝いをしますという環境整備する役割があるといってるんです。
- ・ それぞれの団体が自己紹介なり、自分とこのいろんな組織や事業に関わるデータを十分に情報公開をしているということが望ましいんですが、なかなかそこまでは至っていない現状の中で、自己評価だけでなく、客観的に外部の誰もがその団体について知ろうと思えば手軽にデータ収集ができる状況。例えばNPOで、日本ではまだそこまでいってませんが、アメリカなんかではガイドスターという寄付をする団体が、あそこの団体はどのような活動をしているかとか、財務状況はどうであるか、ファンドレイジングの比率はどうなっているかという情報が売られていて、そういうデータを集積している団体があるんです。だから、なんらかの形で、中間支援組織としてそういう環境を整えていくことが必要ではないかと思います。
- ・ なぜこんな話になったかということ、もっと市民のセクターの側が公共的な事業に関わっていいはずなのに、なぜ、そうっていないのか。NPOそのものが社会的な認知がされていないからというのもいえると思いますが、より公益的な分野に参入していこうと思うと、そのNPOがきっちりと責任を果たせるということを社会に認めてもらう必要があるということです。仕事をやり遂げるだけの能力があるということを社会に示さなければならぬ。だから、財務状況をみなさんにわかるようにしていく努力もして、自

分達がやれることを示していかなければいけない。そういう社会の官と民と企業の3つのセクターが歪な関係で存在するのを、もっとなだらかに市民の側に傾斜するために、それは必要なんじゃないかと思います。

- ・ よろしいですか。まだわからないことがあれば質問してください。
- ・ 自ら情報を収集して提供していくという形なのか、それとも各団体が情報を公開するようになっていくのか、どちらか。自立した団体ということを促す意味では後者のほうが大事ですね。
- ・ そういう決まったところに情報が出ないと各団体全部を回って情報収集するわけにはいかない。中核となる支援組織のところに行けば、ほとんどの団体のデータを比べることができると思うので、それはやはり基本的には三重県の中核のセンターとしてそういう機能を持っていただくということが、社会を変えていくためには必要になってくるので、「かえる」のところに置いてある。上のところで、市民活動の団体のマネジメントとの関係のところできっちりやっていければいい。

注6 事務事業についての意見交換

- ・ 後でまたもう一度聞かせていただくということで、次にいきたいと思います。注7になっていますが、注6です。事務事業は、「かえる」の具体的な取り組みの「行政の事務事業の検証」のところですか。これは行政の方はもうだいたい知っていると思いますが、これはインターネットからちょっといろいろ調べてみたら「事務事業とは、行政が予算や人を投入して行う活動を目的ごとに区分したもので、事務とは行政に関する申請・交付等の事務ならびに行政内部事務。企画 会計等を指し、事業とは、教育福祉等の行政サービスならびに公共工事事業、道路施設の建設等を指しています。」ということらしいです。事務事業といったときには、行政が行ってる全ての活動を一まとめにして事務事業というそうです。
- ・ 単純に言うとそうなんです。事務事業以外のことって、極論でいったらないんです。ほぼ100%で事務事業。
- ・ 税金の徴収とかはどうしてるんですか。
- ・ 税金の徴収は事務です。交付等ですね。
- ・ 三重県は事務事業の定義はしていません。
- ・ 抽象的なんですけど、何かの法律の中に「事務事業とは、」と載ってます。中を読んでもよくわからない。ぼやーっと全体を捉えた話にしてあるだけ。事業で検索するとけっこうたくさん出てきますけど、県が事務事業を語っているのは、ほぼなかったです。市町村とかにしか出てこなかったです。
- ・ ということで、もしほかに何か意見とかあれば。

「行政の事務事業の検証」についての意見交換

- ・ 行政の事務事業の検証を具体的にどういうことをするのか。
- ・ 役所がしている仕事を見張るということです。

- ・ 最初は、事務事業の評価となっていたのは、議論上の評価をもともとと言っていたんですよ。議論的にはもともとは、評価ということをやっていたんです。でも評価という言葉は使いにくいだろうというので、言葉的な問題で検証ということばに代えてもらった。
- ・ この「かえる」というところは政策提言ということをやっているんですよ。それで社会の仕組みに対して「ああじゃないか、こうじゃないか」という意見を提言しているところなんです。そういうことは具体的に何かというと、今の行政のやり方について、私達から、「この事業よりもこういうふうにしたらどうか」とか、「私たちならこういうふうにできるから一緒にしませんか」ということを言うために、検証ということをしないと、意見として出せない。だから検証がいるってことです。自分達が社会に対して矛盾を感じて「それでこれはおかしいやないか、このやり方は違っているじゃないか」と思ったときに文句を言うだけでなく、「私達ならどうやる」と具体的なものを示さないといけないですよ。「私達ならこうやりたいとか、こうやれるとか、こういうふうにしたらどうか」ということを言おうと思うと、今していることを「それでいいの、どこがどうなのか」ということを調べないと意見は出ないですよ。だから、社会を変えていくために私達が意見を言っていると思ったら、今していることを調べる必要がある。だから検証です。
- ・ たとえば、行政の予算は単年度で使い切るようですが、繰り越したり出来ないのか、と思います。
- ・ そういうこともあるけれど、今の行政システムは、使い切らないことには、翌年に残して翌年度予算と一緒にして使うという制度が、あらかじめ用意されていない。残ったからといって、来年これ使いますと残せないシステムになっています。だからみんな使い切るんです。
- ・ 3年ぐらいの会計年度に、多分何年後かには変わってる可能性はありますけどね。だから、これは工事とか、あれもこれも関係するかもしれないが、例えば3年ぐらいの計画でしたほうがいいということも当然あるので、そういったことを調べないとこういうふうにしていった方がいいですよと言えないでしょうということや検証です。
- ・ 使わなくていいのに使わないといけないので、使い切っているでしょというのでシステムの変更の提言が出来る。そういう検証はいるわけです。
- ・ まあそればかりではないですけどね。もっと色々いっぱいあると思います。
- ・ 今の行政は、年間目標を作ったときがあって、それに照らし合わせて評価しているけど、自分達で当然評価しているのだから、自分達の都合のよい評価をすると思う。だから、自分に関係ある事業を洗い出したことがあるんですが、要するにやったという成果は僕からすると目的からくる成果ではなく、事業をしたという成果なんです。だから市民から見たとき本当にそれは必要なのかというハテナなんです。なので、そういうことをちゃんと民間から見ないと、そういう自己評価の元にやるというふうになってしまう。それに比べて、協働事業で私達にも成果を出せ出せといわれるのですが、私達から

すると成果の出し方が違う出し方なので、私達は必要だと思っても行政から評価されないんです。そういうふうに評価の仕方っていうのは違いがすごくあるので、市民からすると絶対に必要じゃないかといっても、「いやー」って話になってしまうので、一緒に作りましょうというのが通っていかないんです。だから、片や自分達で必要だと言っていることを、自主的に繰り返していく事業をやりながら、もう一度、社会的に必要だという事業が評価されなかったり行われなかったりするということが起きてしまうので、そういう意味では行政の事務事業をきちんと見ていくというのは大事な時期であるのではないかと思います。

- ・ 全国的にも行政自体を市民が第三者評価するところがありますが、今のところはまだ行政評価は行政がしている。三重県が一番早くから取り組んでいる。今言われたようにまだまだ評価をするために、莫大なお金をかけて評価事業の調査をしないといけないということがおこってきてしまうので、目的に対する何を評価するのか、そこらへんが非常に困っているという。
- ・ 一人歩きしてしまうのでね、評価というのは。
- ・ だから評価は、目標ではないと思います。その数字の目標をいくつ達成したということではないんです。だけど目標であり成果になっていくという、それだけで評価されてしまう。
- ・ みんな苦労したんですよ。今思っているのは、集会とかしたら、そこからどんな効果が生まれてくるのかが疑問で、どういうふうに社会とか行政に伝わっていったらどう変わったかというのを検証しないといけない。
- ・ 目的はちゃんとあるんですけど、その目的が達成されたかどうかを図るための、何を計ったら、それがわかるというための目標なんですけど、また、この目標を達成することが目的になってしまいがちなので、一応書いてあるんです。
- ・ 本当なら毎回その計画に対しての住民アンケートが行われないといけない。それぐらいのことをしないときちんとした評価にはならない。
- ・ 満足度を計ったりというのは、全部アンケートで、総合計画なら総合計画に対しての項目の全てについて、アンケートをとって、今、この水準だから、これをどこまで上げるというようなことをしないと絶対に無理。毎年、何千万というお金を当ててやることになる。
- ・ そのほうがもったいない。
- ・ 逆に個々の職員が評価している方がもったいない。時間的には。非常に事務的に手間をとる。そうすると客観的に外からの評価で、その事業は縮小、この事業は廃止というのが客観的に分かる。多分やっているとところもあると思います。まだまだ始まったばかり。
- ・ この辺は具体的にどういうふうにしていくかという話なんですけど、そういうことも視野に入れて、検証という中での政策提言です。ということで、後は何かありませんか。全体を通してもし何かあればお願いします。

次回研究会について

- ・ また整理させてもらったのを今度は提言として、一応これでまとめられますよね。それを次回2月5日に提言として出させてもらって、最終決定になると思います。
- ・ 案が消えますね。消して出させてもらって、確認をしてもらいます。ただ重大なことがあればまた集まってもらうかもしれませんが、それで出します。作業部会の日だけ決めておきますか。じゃあ5日の10時からということをお願いします。

次回研究会 2月5日13:30~

作業部会 2月5日10:00~